



生野高校
77期 2年

学年通信 悉い有

第25号 (2023年4月19日)

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂1-552
072-332-0531(学校代表)
072-332-0712(学年直通)

学年直通番号の末尾が
2年の「2」です!

◆◆◆ 副担任紹介 ◆◆◆

(ブログ用に教員名は割愛しています)

【1組 副担任】(数学)

大学受験の難問題が解けたときの爽快感にひかれ、理学部数学科へ進学しましたが、大学での数学の内容は思い描いていたものとは違い、哲学書のような書物(内容は数学ですが…)を読み進めていくというもので、正直あまり興味がわかenかったのです。数学の大学受験問題にかかわる仕事をしたいということで教員免許を取得し、大阪府の教員になりましたが、今思うともっとよく調べて進路選択をすべきだったかも…。好きな歴史の研究や芸術方面に進んでもよかったかなあ。しかし、赴任したいろんな高校で数学には全く無関係な仕事であっても、それぞれやりがいを見つけて毎日楽しく過ごしてこられたのは、色んなタイプの高校生と出会える教員という職業だったからかもしれません。

【2組 副担任】(英語)

教育学部の欧米言語文化コースで、欧米言語の特性やその背景にある文化を学びました。自分自身疑問に感じていた、「なぜ日本人にとって英語を習得すること(特にスピーキング)はこれほどまでに難しいのか?」という率直な疑問を、日本語と英語の言語構造の違いや、日本の教育制度の仕組みから考えてみました。

【2組 副担任】(英語)

文学部に入学し、初めは英語・英米文学を専攻しようと思っていたのですが、3回生で選んだのは英語英米文学科の言語文化学専攻で、フランス文学でした。新しく学び始めたフランス語に魅力を感じたからです。フランス語を勉強しながら、フランス文学の作品を(残念ながら多

くは日本語で)読み、作品の書かれた当時の社会の在り方や人間の心理を学びました。卒論はバルザックの短編『ウジェニー・グラन्द』についてです。

【3組 副担任】(国語)

教育学部国語教育コースにおいて明治・大正期の児童文学についての研究をしておりました。ジュブナイル作品を中心に、その成立過程や原典を確認し、作者の思いや当時の社会情勢などにも言及する、といった内容でした。自分が選択したゼミは文学系のもので、そのような研究内容になりましたが、他にも方言や海外の言語文化をフィールドワークを通して研究しているゼミもありました。教育学部でしたので講義は教育に関するものが多かったですが、個人の研究内容は国語に関連することならかなり自由でした。

【4組 副担任】(音楽)

大学では作曲を専攻しました。「作曲」というと、何か「散歩中に良いメロディが浮かんでくるのを待つ」的なことを想像するかもしれませんが、そういうのでは無い感じです。膨大な過去の作品についてその理論的構造、社会的背景等をひたすら分析し、その延長線上にある現代の音楽のあるべき姿を考える、というようなことをやっていました。一生懸命学びましたが、今になってもまだまだ知らない事が沢山あります。学ぶことはとても楽しいです。

【5組 副担任】(物理)

教育学部理数コース(物理学)を専攻していました。古典力学を中心に勉強していましたが、教育実習を機に理科教育に力を入れるようになり、指導法・教材の研究、実践を繰り返していました。教育学部は、基本的に小・中・高とす

すべての教員免許を取得することができますが、他教科の免許取得も可能なところが多いと思います。ちなみに私は、中高の理科と体育の免許を取得しました。

【6組 副担任】(数学)

理学部の個体物理の研究室で、超伝導体の薄膜作成について研究していました。超伝導とは、ある物質の電気抵抗が極低温でゼロになる現象のことで、リニアモーターカーなどに应用されています。この現象が、薄い膜状にしたケイ素化合物でも起きるかどうか、温度や圧力などの条件を変えながら調べたりしていました。-200度くらいの極低温にするため、よく液体窒素を使っていましたよ。

【7組 副担任】(保体)

教育・コーチング・マネジメント分野の中から、教育学を専攻し、“良い体育の授業とは？”について研究しました。効果的な発問、集団を無駄なく移動させる授業計画、個人やグループへのフィードバック等について分析しました。大学生の模擬授業や、現職教員の授業を数多く分析し、自身の中で蓄積し・考察できたことは非常に有意義でした。興味のあること、知りたいと思うことと出会える(可能性が高い)進路を見つけてください。

【8組 副担任】(英語)

I studied Sociology at the University of California at Santa Cruz. I disliked standardized tests, so I did not enter this university directly. I went to a Junior College (短大) and studied very hard to transfer to the UCSC. I worked very hard at my university and earned a degree in Sociology. I was the first person in my family to graduate from college. My advice to the students in this grade is to start thinking about your future now. Try many things and find your passion. Be flexible and open to new ideas. Then, do everything you can to achieve your goals.

【8組 副担任】(生物)

作物学。私は水稻の品種特性（主に品種ごとの環境応答の違い）や、いろんな条件下の生育と収穫量を調べました。夏は長靴、麦わら帽子、日焼け止めで農場に、冬は室内で窒素分析の日々（地味…）。生物図録に載っている「生産構造図」を実際に作りました。いろんな数値で植物の生育を見るのが楽しいです。農学分野なので、ゲノム系や栽培系と多様ですが、最終的には実生活に関係してくる勉強が多かったです。

【9組 副担任】(地理)

経済学部のビジネスマネジメント学科（経営学を中心に）で、企業の競争戦略やリーダーシップ論について研究しました。組織を動かして成果を上げることができる優れたリーダーとはどのような特性を持つのか？また、組織の課題や条件によって取るべきリーダーシップはどのように変わるのか？などについて考察しました。その後は民間の企業に就職したあと、通信制の大学で教員免許を取得し、現在に至ります。

【学年所属】(養護教諭)

生活科学系の学部で、人間福祉、特に子どもの発達と健康について学びました。入学当初は心理学を専攻希望でしたが、学ぼううちに他の分野に興味広がっていき、卒論は遺伝子解析(高校時代は文系です)という予想外の4年間でした。座学だけでなく実習やフィールドワークを通じて、社会学・福祉学・教育学・心理学・医学など様々な分野の学問に触れることができたのは、とても貴重な体験でした。

【学年所属】(実習教員)

幼少期から、植物（特に野菜の栽培）に興味があり、農業専門の高校に行く決めていました。その学科では、作物の栽培やバイオテクノロジーなど専門的に学べ、栽培した作物は校内や文化祭で販売していました。どうしたら農薬を減らせるだろうか。と思い、在学中は「コンパニオンプラント」を研究していました。明確な結果は出ませんでした。これも研究の面白さだと思います。

◆4/14 学年集会より

高校入試でみなさんが目指して準備したのは、「全日制・文理学科」。ただ、実体は普通科と準備は変わりません。入試日程も入試科目も同じです。異なるのはB問題かC問題か、といった学力水準くらいでしょうか。したがって、私立高校受験も含めて、中学校や塾で、周りと同じ動きをしていれば事足りたと思います。

一方、大学受験は、1月の共通テスト、2月の私立大学、国公立前期、3月の国公立後期(中期を受ける場合もあります)と、これだけで約10受験。国公立大では、生野生は北海道から九州まで幅広く受験に行きます。当日の朝、家から受験会場へ向かう人もいれば、前日から現地入りして一泊し、当日の朝を迎える人もいます。東大・京大は二次試験が2日間あります。私立は複数の入試日程が用意されており、同じ学部志望の人であっても、受験日が異なることは珍しくありません。何より、大学入試では、まず学部(場合によっては学科やコース)ごとの志望に分かれています。こうしたことをふまえると、学年全員が全く同じ動きとなる人は、ほぼいないと考えてください。受験日が異なるということは、合格発表日も手続きの締切日も異なるということ。周りを見てから自分も同じように動くという発想では間に合わなかったり、友人の準備を真似していても自分の準備には合っていなかったりということは、きわめて当たり前前に生じます。「自分の大学受験は、自分が一番の専門家であれ」ということ、しっかり意識してください。

“3年秋から成績が伸びてきて、志望校をワンランク上げる”ということが、大学受験ではまずあり得ないという点も、高校入試とは大きくことなる部分です。そのイメージをまだ残している人は、早く「中学生型の発想」から脱却し、「高校生型」に切り替えていってください。この発想の切り替えが出来ていなければ、おそらく勉強方法も「中学4年生型」(今年度は中学5年生ですね)からの切り替えが出来ていないことでしょう。受験の性質が違う → なら、勉強方法も違う——と切り替えているはずです。

同じような性質のものであるとイメージしている人は、そこに至る道程も同じようなものと考えて行動している可能性が高く、要注意です。

“ひとまず公立大を目指してみるけど、3年で学力が伸びたから阪大や神戸大の受験も視野に入れてみる”——は、絶対と言っていいほどあり得ません。1年11月の進路希望調査の際に、担任の先生が「第一志望は高く維持しておきなさい」と話していたのは、そのためです。

1ミリでも京都大にあこがれる、目指してみたいと思うなら、第一志望は京都大。1ミリでも大阪大にあこがれ、大阪大に行きたいなあと思っているなら、第一志望は大阪大——自分の第一志望を様子見したり、遠慮したりする必要はありません。目指さなければ届かないし、目指さなければ、それに応じた伸び方はしません。伸びてから“届くから受験する”のではなく、届く自分になるよう、そこに向かって自分を伸ばしていくのです。だからこそ「第一志望は、ゆずらない」なのです。

勉強を「家を建てるイメージで」と例えた話は、第21号(2023年2月27日発行)の学年通信で書きました。3年になってから、基礎部分が“あれも覚えてない、これも分かってない、それも使いこなせない”では、演習をやってもやっても伸びないのは当然のことです。卒業生にアンケートを取ったとき、「やっておくべきだったこと」の質問に、「もっと早くから始めておくべきだった」の回答が毎年多く寄せられます。3年になって演習を本格化していく段階となってようやく、基礎固めの重要性に気付く人は少ないようです。一方で、部活と勉強の両立をやり遂げ、自分の志望実現に結びつけた人からは、「とにかく授業で覚え切る・理解し切る」「隙間の時間を使って、“この時間でこれをやる”と組み立てていた」といった回答が、よく寄せられます。限られた時間のなかで、取りこぼしがないようにだけは絶対にしておく——これは、文武両道の学校生活に励む人が多い生野生の、一つの必勝パターンのようなものです。

国・英・数3教科の共通テストの範囲は、2年冬までの授業で完了しています。したがって、基礎固め完了の目安のラインは2023年12月末です。2024年1月の生野ベーシックテストで基礎固めの完了度合いをチェックし、やり残している分を2024年3月末までに回収し切る。2年生3学期部分を、大学受験業界では“3年0学期”と呼んで重要視しているのは、こうした理由からなのです（これも第21号に書きました）。ここから分かることは、「3年からでは、間に合わない」ということです。

2023年12月末、遅くとも2024年3月末を目安に、そこから逆算して2年生の日々をどう使っていくのか——勉強時間0分の日には作らないように、とは言ってきましたが、どうしても出来ない日もあると思います。では、それをどこで回復するか。そうしたことを意識して、2年生の1週間、半月、1ヶ月…と組み立てていってください。

◆やる気を出すための秘訣！あります。

「やる気が出ない…」「集中力が…」——平日90分/休日は180分が自主学習時間の目安だという話が学年集会でありました。平日の90分という数字は、「国・英・数の3教科それぞれで予習15分+復習15分でしかない」ということでした。GLHSの授業レベルで3教科の予復習が15分ずつで済むはずがありません。最低限の授業の準備とフォローをするだけで、平日90分は容易に達成されます。

ところで、「やる気がなかなか出なくて…」という人！ひょっとして、“やる気が出る→だから勉強に着手出来る”と思っていないですか？その発想が、そもそも誤りであることに気付いてください。正しくは“勉強に着手する→あとからやる気がついてくる”です。

精神科医の樺沢紫苑さんは、著書『学びを結果に変えるアウトプット大全』で、「作業を始めてみると、だんだん気分が盛り上がってきてやる気が出てくる」＝「作業興奮」のメカニズムを次のように紹介しています。いわく、脳の

「側坐核」という部位が活動すると、海馬と前頭前野に信号を送り、「やる気」が出て、脳の調子が上がってくるとのこと。但し、側坐核の神経細胞は、「ある程度の強さ」の刺激が来ないと活動を始めないそうです。そして、その必要時間は「5分」だそうです。

筆者は、ここから「やる気スイッチ」が入るためには、「まず始める」こと。それを持続させると側坐核が自己興奮して本格的な「やる気」が出る——と結論付けています。

さて、これを学習に当てはめると、最初にすぐ始められて没頭しやすい内容のものに着手し、自分の気分をのせていく——といったところでしょうか。脳は騙されやすいので、自分自身の行動によって、脳に「そうか、いまは勉強モードなんだ」と後から付いて来させるイメージです。“やる気が出るから始める”のではなく、“まず取りかかるから、やる気が後から付いて来る”という流れを、理解できましたか？パッとすぐに始められるものを第一に、続いてじっくり取り組むものを第二に。例えば、それを30分ぶん×3セット、4セットといった形で組み立てる。いま既に自分の学習の形が出来ている人は、それを続けてください。思うように出来ていないと悩んでいる人は、ぜひ上記のパターンを試してみてください。1年最後の学年集会(2/16木)や、同日の学年通信第20号で述べた、「取り掛かりが早い(パッと始められる)」ことの大切さ——分かっていただけでしたか？但し、「まず始める(まず始められるものをあらかじめ考えておく)」学習法を、パッと取り組み始めなければ意味がありませんよ。

◆4/20(木)は健康診断です

この日は午前中授業、午後が2・3年生の定期健康診断です。昼休みに体操服に更衣をして12:55に体育館に集合です。午前中に体育の授業がないクラスは、体操服を忘れないように気を付けてください。